

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

101

発行日：令和8年3月16日(月)
(2026年)

地域企業紹介 97

株式会社 AGORA

代表取締役 CEO 長谷部信樹

人がつながり、小さな挑戦が地域を動かす コミュニティの創造へ

コワーキングスペースの運営や起業を目指す方などに向けたイベント・相談会などを行う株式会社 AGORA の長谷部信樹 CEO を、町田にあるコワーキングスペース“BUSO AGORA”に訪ねました。

人々が集まる場所は文明の進化と共に、水資源、交易の要衝、城壁都市、工業都市へと姿を変えてきた。現代では利便性だけでなく、価値観や体験を共有できる「選ばれるコミュニティ」が求められ、SNS等の仮想空間との融合も進む。こうした「人が自然に集う場」の本質を象徴する古代ギリシャ語の *ágorá* (広場) を社名に掲げる AGORA 社。現在は5つのコワーキングスペース運営を通じ、様々な人々が集まり新たな価値が生まれるコミュニティづくりを実践している。

1990年代のバブル経済崩壊を機に、日本での創業支援は普及啓発や資金面の制度的支援から始まった。やがて支援は、コワーキングスペースの整備やコミュニティ形成といったソフト面も組み合わせた複合的な形へと移行し、官民が連携して整備・運営するプロジェクトが急増した。さらにデジタル化やニーズの多様化、イノベーション重視の潮流を背景に、政策はスタートアップ重視へと本格転換していく。そこでも重視されているのは、起業家同士の交流や専門家とのパートナーシップ形成である。個人の経験だけでは補えない知見を共有し、激しい市場変化に対応するための「共創の場」には、起業家のみならず企業や資金供給者、法務等の専門人材や行政も引き寄せられている。こうして制度・場・人材が重層的に結びつき、起業家を継続的に育む“エコシステム”が形成されつつある。

AGORA が運営する「BUSO AGORA」は様々な人や事業者が自然に集まり、交流から新たな挑戦が生まれる場づくりをコンセプトとして2019年に町田で開設された。その後、首都圏で me:rise TACHIKAWA、AGORA KGU-KANNAI、AGORA Hon-atsugi のコワーキングスペースもプロデュース・運営受託し、昨年には既存の運営事業者から運営を引き継ぐ形で SPRAS 青葉台の受託運営も開始。地域に根ざした拠点を広げてきた。各施設はカフェのように開放的で居心地がよい空間でありながら、1名用個室やブースも備え、集中作業やテレワークに適した機能性を併せ持つ。また、テーマ型ランチ会や交流会などが定期的に開催され、利用者同士がつながりやすい設計となっているほか、法人登記・会議室利用など、実務面でのビジネス利用にも対応している。

AGORA 社の事業は「場づくり」と「創業支援」の二本柱で、創業相談や実務知識の提供など、起業の初期段階から継続的に伴走する支援が特徴である。それを支えるのがインキュベーションマネージャーとコミュニティマネージャーであり、特にコミュニティマネージャーは起業家同士や起業者と専門家・事業パートナーとの関係を築く重要な役割を担う。拠点を増やしながらも、AGORA 社が掲げるミッションは一貫して「ローカルに small good business を生み出すこと」。スタートアップと言えば、最新テクノロジーや独自のビジネスモデルで急成長を目指すスタートアップをイメージしがちだが AGORA 社は異なる。地域を自らの手で活性化したいという志を持つ起業家をメインターゲットに据えているのだ。

代表取締役 CEO：長谷部信樹（はせべのぶき）
事務所所在地：東京都町田市原町田 6-9-8AETA 町田 4F
従業員数：20人
事業内容：コワーキング運営・プロデュース事業
URL：<https://www.agora-localincubate.com/>

長谷部氏は鳥取県日野郡出身。法律の道を志して高校卒業後、地元を離れ関東の大学に進学した。在学中は社会や制度のあり方に関心を持ちながら学びを深めていた。その時期に小さな焼鳥屋でアルバイトを始める。アルバイト先が多店舗展開する過程を間近で見た経験が、事業の成長や組織づくりへの関心へとつながった。「一度ビジネスの世界に身を置いてみたい」という思いが芽生え、迷いと期待が入り混じる中、そのまま就職を決意した。

20代は現場で働き、30代は会社の体制づくりに注力した。バックオフィスの立ち上げ、財務管理、人事部の設立、新卒採用の開始、労務改善などを担当。労務面では、社員の労働時間を50%カットするなどの改革を行った。就職したころは個人事業主のお店だったが、やがて法人化。(株)キープウィルダイニングとなり、さらに成長を続けた。気づけば10年も在籍していた。

その後新規事業開発部門に異動し、BUSO AGORAの立ち上げに関わるようになった。さらに、施設計画は東京都のインキュベーション施設運営計画認定事業の基準を満たし、認定を取得したことで創業支援拠点としての歩みが本格的に動き出した。専務取締役を務めていた長谷部氏が中心となって推進してきたコワーキング事業が分社化され、(株)AGORAが設立。代表取締役CEOとして経営に、また、インキュベーションマネージャーとしての創業支援などの業務にもあたっている。

社会情勢の変化を背景に急増したコワーキングスペースは現在も緩やかに

はあるが増加の傾向にある。しかし、家賃と人件費の負担が大きいというコワーキング運営事業に共通する収益構造は、経営者の手腕を問うものとなっている。無人経営で固定費を圧縮し、売上を伸ばした事例もある中、AGORA社は自ら掲げた理念を追求する。人が集まるリアルな場所には、場を温め、人と人をつなぎ、チャンスを逃さない目利きとアクションがなければ、やがてその場所は集まる意味を失う。その役割は“人”が果たすものでなければならない。これは、1つの場所を徹底的に磨き込んで得られたAGORA社のスタイルである。さらにAGORA社は、理念である「ローカルにsmall good businessを生み出すこと」を広げるべく、鳥取県を含む山陰地方で創業支援の取り組みを進めており、近い将来、支援拠点開設も視野に入れた動きを始めている。

地域の力を生かす持続可能な事業こそ真にフォーカスされるべきだという長谷部氏の信念。その実現のために、起業家を成長させ、事業をはぐくむコミュニティを創り上げようとする強い意志が、AGORA社の活動を支えている。いま、国や自治体も裾野の拡大、地域創業、スモールビジネス、そして伴走・共創・市場形成へと政策の軸足を移し始めており、時代は確かにその方向へ動き出している。そうした潮流の中で、AGORA社のその歩みは、ローカルから未来を紡ぐ鼓動として熱を帯び、鳴り響き続けていく。

KANAGAWA Space Village (KSV) がオープンしました。

令和7年(2025年)12月23日、橋本駅北口ミウイ橋本2階に、神奈川県宇宙関連企業交流拠点”KANAGAWA Space Village”(以下KSV)がオープンしました。



リニア中央新幹線「神奈川県駅(仮称)」の整備が進み、ロボット産業を始めとする先端技術が集積する橋本駅周辺。日常と宇宙が交差する高揚感が、ここ橋本から始まりました。JAXA相模原キャンパスも近いこのエリアでは、宇宙は遠い夢ではなく、地元の技術が天体探査や衛星へと繋がる、「すぐ隣のビジネス」となっています。研究開発の熱が溢れ、ベンチャーや中小企業が手を取り合い、宇宙へと広がる未知の経済圏を切り拓く。KSVにはその役割が期待されています。

KSVにはコワーキングスペースやギャラリースペースが整備され、宇宙に関する様々なイベントも開催されます。

★コワーキングスペース・ギャラリースペース運営

日常的な交流や持続的なコミュニティ形成促進のため、セキュリティを備えたコワーキングスペース兼

イベントスペースを設置しています。対象は宇宙関連企業、大学・研究機関、金融機関、支援機関、自治体等の関係者で、これから宇宙関連産業に参入を目指す企業も利用可能です。

※利用は会員制のため、事前にHPから登録が必要です。



ギャラリースペースは一般の方も自由に入場可能です。JAXA関連模型等“宇宙を楽しむ展示”の他、宇宙キャラクターグッズやカプセルトイなど子どもから大人までワクワクできる空間になっています。



★宇宙に関する多彩なイベント

プレーヤー間の連携・交流を促すために宇宙に

関するイベントを随時実施します。

例えば、製造業向け宇宙産業への参入セミナーなど、企業の宇宙産業への参入促進を図ります。



KSVは、企業の宇宙産業への参入と共創を促進する新たなプラットフォームであり、県民の宇宙への興味・関心を育む場です。SICは本事業に参画し、宇宙関連産業の振興に、そして多くの企業の宇宙関連産業参入へのかけ橋となるべく取り組んでまいります。



神奈川県相模原市緑区橋本3-28-1 ミウイ橋本2階
営業日：月曜日から金曜日 9時から20時
※イベント実施時はコワーキングスペース利用不可。
◎最新情報は、SNSでご確認ください。



HP



X



Instagram

※SICは令和7年度宇宙関連企業交流拠点事業を受託しています。

2026年、神奈川県は、象徴的な光景から始まりました。横浜市役所アトリウムで、国際宇宙ステーションからの初日の出を中継するイベントが開催されたのです。この出来事は、宇宙ビジネスを取り巻く現在の潮流を示しています。背景には、宇宙産業を戦略的な成長分野と位置づける国や自治体の動きと、民間主導の市場拡大があります。

2024年、世界経済フォーラム（WEF）は、2023年時点で6,300億ドル規模だった世界の宇宙産業が2035年に約1.8兆ドル規模に成長するとの予測を示しました。注目すべき点は、この成長がロケットや人工衛星の開発のものだけでなく、データ利用、サービス、地上ビジネスへの応用によってなされるということです。宇宙産業の成長とは、宇宙データが他産業での新たな付加価値創出に使われていくプロセスでもあります。

日本においても、政府は2023年の宇宙基本計画において、2020年に4兆円だった市場規模を2030年代早期に8兆円に倍増させる目標を掲げました。10年間で1兆円規模の宇宙戦略基金をはじめとする支援策を打ち出し、宇宙関連産業を中長期的に育成する方針を明確にしています。加えて、自治体レベルでも宇宙産業を地域の経済と豊かさの成長エンジンと捉え、スタートアップ支援や企業間連携の促進などが進

められています。これらの動きは従来の宇宙関連企業だけを対象としているものではありません。

宇宙ビジネスの現場では、非宇宙企業の参入が強く求められています。実際、宇宙×〇〇を考えよう、という掛け声をよく聞きます。〇〇に入るのは農業、防災、金融、不動産、エンタメなど一見、宇宙とは関係ないものです。しかし、宇宙技術、例えば、人工衛星が取得する地球観測データの活用により経営革新を起こそうとする他業界の企業が続々と宇宙ビジネスに参入しています。宇宙ビジネスを特別なものと捉えるのではなく、まず自社の課題を考え、その課題解決のために衛星データが役立つのでは？と考えることが宇宙ビジネス参入の第一歩になるわけです。

一方で、技術力に自信のある中小企業にとっても、市場は大きく変わりつつあります。国主導のプロジェクトだけでなく、宇宙ベンチャー向けに製品やサービスを提供することで、市場拡大の恩恵を直接取り込むチャンスが生まれています。従来製品や技術の提供先を広げるという発想で十分に成長の余地があります。

こうした新たな挑戦を後押しするのが、公的支援制度の存在です。支援は補助金や助成金などの資金支援ではありません。公的支援機関によるプラットフォームの設置などは、共同開発や異業種連携を通じて宇宙との接点をつくる

ための仕組みでもあります。

宇宙ビジネスの本質は、「自社の強みをどの市場で活かすか」、そして「自社の課題をどのように解決するか」にあります。国や自治体の後押しを追い風に、リスクを抑えつつ宇宙を次の成長分野として捉え、経営革新の方策を検討することは、企業経営にとって有力な選択肢の一つと言えるでしょう。



Booster Brain Consulting 中小企業診断士
齋藤 崇史氏

JAXAでの経営企画業務、国内外の金融機関での投融资実務、内部管理業務などに従事した経験で培った経営視点を背景に、製造業の販路開拓支援や農家など非宇宙企業の宇宙ビジネス参入等、中小企業の経営革新を支援している。英 Warwick 大学大学院経営学修士（MBA）。

焼鳥 炎家

東林間駅徒歩1分、「焼鳥 炎家」は、美味しいランチが楽しめる地域に愛され23年の居酒屋です。昼のランチは定食と丼の8種類。その味は、メニューごとに毎回注文する常連のファンがいるほど。今日は、濃厚タルタルソースの「チキン南蛮」、旨辛がやみつきになる「蒙古唐揚げ」、博多の郷土料理「博多ごまサバ」の3定食をいただきました。

注文してすぐに全品が並び、唐揚げは、大きく柔らかい鶏肉4個と山盛りの柔らかいキャベツ、ご飯とすまし汁、小鉢と漬物、そしてりんご酢が添えられています。ごまサバは、新鮮で厚みがある切り身に卵とタレが絶妙に合います。

「早い」、「安い」、「うまい」の炎家のボリュームランチを落ち着いた店内でゆったりと楽しめます。（稲垣）

【住所】相模原市南区東林間5-3-3

【電話番号】042-744-5105

【営業時間】11:00～24:00（L.O.23:00）

【定休日】元日

【URL】<https://www.enya-sumiyakichubo.com/>



蒙古唐揚げ定食 旨辛がやみつき！



チキン南蛮定食
濃厚タルタルとジューシー唐揚げ



博多ごまサバ定食
一晚漬け込まれた塩味の生サバ



Sagamihara Space Industry Forum 2026 開催しました！



SIC では、1月30日相模原市宇宙関連産業ネットワークイベント「Sagamihara Space Industry Forum 2026」（相模原市主催、神奈川県・JAXA 共催）の運営を担いました。宇宙関連産業に関心がある企業の方々159人が参加し、開設間もない神奈川県宇宙交流拠点「KANAGAWA Space Village」の見学会も実施しました。参加者からは「相模原市や神奈川県の熱量が非常に伝わってきましたので、どういった形で弊社が貢献できるのかを真剣に考えていきたいと思っています。」といった積極的な感想が寄せられました。

SIC は、相模原市や神奈川県が進める宇宙関連産業政策に協力し、地域企業の宇宙産業への進出について、引き続き携わってまいります。

詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和8年3月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

3月17日(火)	ロボットSier支援セミナー「遠隔制御技術」を活用したビジネス創出
3月25日(水)	中小企業にこそ見てほしい！「SMC 草加工場」視察・見学会
3月25日(水)	The HINT72 "右腕"育成と活躍の場をつくるシンプルな6つのカギとは？

予告 第20期SIC職場リーダー養成塾 4月1日より受付開始！



Peatixにてセミナーのご案内をしています。
宇宙に関するセミナーにご興味のある方のフォローお待ちしております。



knock! knock! SIC空室情報 (令和8年3月16日 現在) ※お気軽に稲垣・大谷までお問合せください

	部屋	空室数	賃料/月額 (共益費・消費税込)
SIC-1 Startup Lab.	○スモールオフィスA(23.6㎡)	2	97,680円
	○スモールオフィスB(17.3㎡)	1	79,640円
	○スモールドライラボ(17.3㎡)	1	79,640円

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

さがみはらロボットフレンドリー Dayが 制定されました！



令和8年2月21日「ロボット大集合！ in アリオ橋本2026」にて

相模原市は、ロボット先進地域として市民とロボットが共存する「ロボットのまち さがみはら」の実現を目指し、6月10日を「さがみはらロボットフレンドリー Day」として制定しました。ロボットの語呂合わせと、「ロボットフレンドリーな環境構築に係る実証事業に関する協定」を締結した日が記念日の由来となっています。

引き続き SIC は開設 11 年を迎える「さがみはらロボット導入支援センター」の運営をはじめ、人とロボットが共存する未来の実現をめざします。

スモールオフィスB リニューアルのお知らせ



SIC-1 Startup Lab. のスモールオフィス B の床をリニューアルしました！
おしゃれな木目調の床は、タイルカーペットに比べ耐久性が上がり、リラクゼーションした雰囲気が高い創造性をかきたてます。

編集後記

今回の「食のさんぼみち」は AGORA 社・長谷部様のご紹介で、原点でもある焼鳥炎屋にお邪魔しました。店主へのインタビューから、「自分たちの地元をもっと豊かにする」という理念のもと、地元コミュニティや従業員を大切にし、地域からも愛されている様子が伝わりました。皆さんの身近には、どんな愛されるお店がありますか？



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>